

2024年度 10・20 / 前期

京都芸術大学 授業改善アンケート

各学科・センターから学生のみなさんへのフィードバック・コメント

美術工芸学科（アートプロデュース学科・歴史遺産学科含む）

授業アンケートにおいて、皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございました。

2024年前期に美術工芸学科で開講された全ての授業のアンケート結果から、皆さんが授業を受けさまざまな思いを抱いていることを知ることができました。それらには授業から我々教員が授業を作り運営する中で目指したものの以上の学びを受け取ってくれたものもあり、教員一同大変嬉しく思っています。また一方で、授業進行や教員連携の不備、教員からの発言のあり方、スケジュール等事前連絡の遅れ・不備など多くの改善を要する内容も含まれておりました。これらの意見には真摯に向き合い、教員同士で解決に向け話し合い、常により良い学習環境を生み出す努力をしていくことをお約束します。そのためにも日々の率直な思いを我々教員にも遠慮なく伝えてください。皆さんが実現したいあなた自身に出会えるような場所になることを願っています。

キャラクターデザイン学科（マンガ学科含む）

授業アンケートにおいて、学生の皆さまからの貴重なご意見をいただきありがとうございました。

新校舎及び新カリキュラム・クォーター制度などが開始され、思い通りにいかない点多々ありましたが、学生の皆さんと失敗を恐れず挑戦しながら新しい学びを共に創っていければと思います。

皆さんからコメントいただいた非常勤講師含めた授業進行上での課題量のコントロールや授業内容のフォローなどは、教員間で情報共有・連携の仕組みを改善して運営してまいります。

学生の皆さんが自ら成し遂げたい将来を描き成し遂げられるために、そして自分らしく生きていくために、その知識や思考力・表現力を自ら学び獲っていく場が、授業であると考えています。

そのために、学生の皆さんの好奇心を刺激できるような授業内容に改善していくことはもちろん、教員間で情報を共有し、成果物の品質はもちろんのこと、そこに至る研究プロセス及び自主的に挑戦する姿勢を高く評価できるような仕組みについて検討を重ねてまいります。

授業アンケートのみならず、普段の生活から疑問や意見など気軽にご相談ください。

学生のみなさんも一緒に、楽しく学べる場所をつくってまいります！

情報デザイン学科

私たちの励みになるコメントや厳しいご指摘を真摯に受け止め、引き続き授業改善に取り組んでいきます。

・コメントカードの運用（文字数やFBのあり方）は学修効果を検証する上でも大事なことなのでみなさんのストレスにならないよう改善していきます。

・不適切な素材や不快にさせるコンテンツ（映像や音楽等）を授業で使用しないよう教員の意識をさらに高めていきます。

・授業の内容や進行方法、時間配分等をさらに工夫し、みなさんの理解度が高まるよう努めます。

・適切な課題設定や提出（方法やスケジュール等）を個々の授業で行うよう改善していきます。

・特に複数の教員で行う授業は、ストレスの無い運営や、教員間および教員と学生のスマートなコミュニケーションを心がけていきます。

・オンラインツールを活用し教員と学生の円滑な情報共有に取り組んでいきます。

・講評や合評は、丁寧かつ公平にフィードバックできるよう改めて方法を検討していきます。

プロダクトデザイン学科

24年度前期授業へのアンケートでは、23年度後期と比較して授業設計・運営に関して懸念の声は全般減少したと感じていますが、「時間が足りない」との声は一定数あり、理解度・習熟度に関しての各個人への配慮に加えて授業進行への工夫が必要だと受け止めています。各教員の個性・授業での内容・進め方・様々な工夫・熱意に対するポジティブなコメントも多く寄せられていることを考えると、昨年度後期回答結果で感じた学生個々への対応・配慮の課題・不安に答える姿勢・努力は理解してもらえ、授業を楽しんでもらっていると感じています。しかしながら、感触・結果に甘んじることなく、個々の理解・進捗を丁寧に確認し、すべての学生に対して学修の深化を進める授業対応に引き続き配慮していきたいと思えます。

アンケートへの回答は、授業の高質化に向けた大事なインプットとなります。学生の声を受け止め、学修環境、授業内容を高質化していきたいと思えますので、アンケート回答の機会を積極的に活用し、率直な意見を聞かせてもらえることを望みます。

空間演出デザイン学科

空間演出デザイン学科のみなさん、アンケートに回答、コメントしてくれてありがとうございます。たくさんメッセージを受け取ることができ、先生たちも、次の授業もがんばろう！と思える意欲をもらいました。ありがとうございます！

メッセージは、本当にポジティブなものが多く、空Dのみんなが授業を前向きに学び、自分の成長のためにがんばり、先生や学生同士から積極的に多くのことを得ようとしている姿が見えてきました。そのこと自体にとっても感動しました。

1回生のみなさんからは、多くのことを知りこれからの学びが楽しみになったことや、グループでみんなの意見を知り視野が広がったこと、専門授業で自分の作品ができ成長を感じたこと、そして先生への感謝の声もたくさんもらいました。とてもうれしく、頼もしく思いました。ありがとうございます！上回生のみなさんも、新しく授業が100分となり、とまどいもあったことと思えます。それでもみんな先生方の授業への感謝やスキルが向上したこと、フィードバックをもらって制作を頑張れたことなど、たくさん前向きな声を寄せてくれていました。大変うれしく勇気をもらいました。ありがとうございます！

授業環境の改善、先生同士の連絡、指導法の改善、課題の量に関する配慮など、みなさんからいただいた声はしっかりと受け留め、さらに改善をしていくように務めていきたいと思えます。

後期もがんばりましょう！

環境デザイン学科

・1年生の演習授業に関する「放任」・「教員の声が小さい」といったコメント→教員人数の少なさや教室マイクの不備など改善できる事項なので次年度以降修正していきたい。

・課題内容を詳しく「文章で」示してほしい→「補足資料」等の配布によって詳細を伝えているつもりであるが、さらにわかりやすく伝えたい。

・課題が多い・時間が足りない→建築設計そのものが、多くの物事を並行して学び、作業していく必要があるジャンルのため、頑張っつついてきてほしい。その大変さを経たあとには多くの学びやスキルの向上に気づけるはず。

・模型材料の値段の高さ→先輩たちが残したリサイクル材料の利用を周知促進するなどして、エコかつ負担軽減には努めたい。

映画学科

2024 年度 10・20 の「授業改善アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。学科では、皆さんの貴重な回答や意見をもとに、授業をより良いもの、より実りのあるものにしていくための意見交換や話し合いの機会を設け、良かった点、改善すべき点などの検証に時間をかけたうえで、後期授業に臨んでいます。皆さんの意見のなかで特に気になったのが、初年次の全員履修の授業「映画制作入門Ⅰ」に関わるものでした。多くの肯定的な意見をもらい、うれしく思った反面、各クラス間での「情報共有」や「基準」の統一が十分になされていないのではないか、との疑問を提起してくれる意見も複数見られたからです。ご存知かと思いますが、映画学科では、集団での「映画制作」を通じた学びを通じ、さまざまな領域で活躍できる人材の育成を目指しています。なので、「映画制作入門」はとても重要な入口に当たります。映画制作には一つの「正解」があるわけではなく、それぞれの担当教員の考え方も踏まえ、その多様性を伝えることも重要であるとわれわれは考えますが、それが上記のような感触として一部の皆さんに伝わったとすれば本意ではありません。問題点については上記の話し合いでほぼ明確になったので、次年度以降、改善するとともに、関わりのある部分については早速後期以降の授業に反映させていきます。最後になりましたが、教職員と学生のあいだで自由に意見が交換できる環境を醸成しながら、今後もより良い映画学科を目指します。ぜひ引き続き、ご協力ください。

舞台芸術学科

舞台芸術学科の皆さん、授業改善アンケートでは貴重な意見の数々をありがとうございました。教員全員で皆さんからの意見を共有しました。他の教員の教授法に関するポジティブな意見については、教員間で学び合い、自身の授業でも積極的に導入していきます。もちろん、皆さんからの批評批判についても教員全員で話し合い改善策や解決策を講じています。舞台芸術は集団制作による協働で成り立っているからこそ、学生一人一人に目を向けていくことが大切だと思っています。舞台芸術学科ではこれからも一人一人の教員が皆さん一人一人の成長のために努力を惜しまないことを約束します。

文芸表現学科

学生の皆様から寄せられたフリーコメントにはすべて目を通しました。多くのご意見をいただき、ありがとうございます。なかでも好意的な声を多くいただけたことが、教員にとっては励みになりました。特に文芸作品の鑑賞を学ぶ授業では「普段の自分では手にとらない作品を鑑賞し、批評する機会が多かったこと」や「ある文芸作品に対する多様な解釈や感想を交わせる場として授業が機能していたこと」といったコメントがあり、授業の狙いが学生に適切に伝わっていることに安堵しました。また、文芸創作の演習授業では「教員からのフィードバックがありがたかった」や「合評で多くのことを学んだ」という声が多く、芸大の文芸表現学科として重視している点を高く評価していただけたことをうれしく思います。しかし、その一方で授業によっては手厳しいコメントも多く、教員としても、今後の授業改善に向けておおいに参考になりました。なかでも「課題要項の説明不足」や「口頭みのレクチャーでは不親切」といった指摘については、今後はクラスルームを活用した課題要項の明文化はもちろん、授業資料の配布・共有などについても徹底して、改善に努めます。また、一部授業で「評価基準のあいまいさ」についてのご指摘もありましたが、これについても真摯に受け止め、改善をはかる所存です。

こども芸術学科

授業手法について改善を求めるコメントがありました。各授業での課題の頻度や量については、授業設計をおこなう際に学生さんの目線でおこなうこと、例えば、フローやタイミング、量についても大切な授業設計の要件であると教員間で改めて共有し、その改善に努めます。

例えば、授業で使用したスライドは、事後学修に必要で公開される場合には、迅速に公開ができるよう、改めて教員間で共有し改善します。また、授業内で実施するコメントカードについては、各授業でのコメントシートの位置づけをしっかりとみなさんと共有し、最善の運用ができるように改善に努めます。そして、課題やテストに関する要件をみなさんに共有する際の方法については、口頭だけで伝えるのではなく、必ず紙面やスライドに、課題のテーマや要件（字数、期限、提出方法）などをしっかりと提示するよう教員間で改めて共有し改善に努めます。

学びの環境についても改善を求めるコメントがありました。一つ目はPCの利用頻度についてです。科目内での課題や科目外でのプロジェクトを通じて、PCを利用する環境を積極的に設けたいと思っています。ぜひご参加ください。二つ目は、ピアノ室の環境です。残念ながら夏休みの地心館の改修で残念ながら以前のピアノ室よりも少しだけ狭くなります。換気を徹底すること、また今後は壁面の装飾などを工夫することを検討したいと思います。ぜひ、みなさんからのアイデアも研究室へお寄せください。

芸術教養センター

前回のフィードバックでは、オンライン授業におけるコミュニケーションの充実化について書いた部分がありました。この点に関しては、多くの科目が授業スピードの調整やチャット、ブレイクアウトルームを駆使したことにより、「詳しくわかりやすい説明」、「チャットなどを使用した学生との双方向のやり取りを取り入れた授業」、「適切な参考資料・書籍の紹介」など、好意的なポイントとしてのコメントが寄せられました。これからも多くの授業への導入を図りたいと思います。

また、期末レポートや試験に関する声も集まっており、試験・レポートに対して不安を強く感じる方が一定程度いるものと思われます。授業の進行状況ともかかわりますが、できるだけ早い回で試験・レポートの概要や要項等を示し、授業内で説明するようにしたいと思います。

コメントの中には授業内容の難しさを訴える声もありました。上にあげた授業スピードの調整やスライド画面の整理、レジュメの準備などを充実させる一方で、難しいからこそ学ぶ意味があるという「学び」に関する皆さんの意識の醸成も必要であると感じています。分かっていること、簡単であることとは対極にある「知の領域」を、皆さんと一緒に共有していきたいと思っています。

教員および学芸員という公的な「資格」の取得に関わる科目では、専門家として身に付けておくべき知識・技能が授業内容として規定されています。そのうえに、それぞれの教員が専門性を活かして、とくに伝えておきたい関連内容も加えていくかたちで、主に講義形式での授業がつけられています。ただし、授業があまりにも情報を伝えるだけの一方通行なものになってしまわないように、また皆さんの声を随時授業に活かしていけるように、コメントカードや一枚ポートフォリオなどを用いて、教員はどの授業でもなるべく丁寧にフィードバックを行うように心がけています。もちろん、質問や意見があれば、どんどん教員のところへ来て直接コミュニケーションを取ることも歓迎しています（授業改善アンケートにも積極的にご協力ください）。

今回、自由回答欄では、グループワークについての（好き嫌いではなく）建設的な意見が多く寄せられました。グループの決め方、グループで取り組んだ課題の評価方法、グループワークの頻度、グループ内での学生の発言に対してもっと教員が関心を持ち必要に応じてグループの中に入って指導・注意をしてほしい、など。こういった意見は資格支援センター内でも教員間で共有し、改善点を検討します。とくにグループワークをどのように評価に組み込むかについては、初回授業時に学生の皆さんにもしっかりとお伝えするようにしていきます。